○本年縣下の漁業狀況(四)

水産品評會開設の記事を賛す

玉城五郎

○解剖漁業　此漁業も四五年以前はスルヽ操觀業者のスルヽを網羅するの傍副業的に僅に營まれ曾て製節したことがなかつたが慶良間島に於て鰹業の開始されし以來各沿岸に傳播するに至たのである今日最も主要の地は慶良間と本部間切であつて何れも拾萬以上の漁船を有し其の産額も貳万圓以上に上り其他産物中鰹節が第一位にあるのは此の二個所である其他今日斯業の根據地としては古賀辰四郎氏の無人島即ち尖閣列島八重山の與那島及び鳩間島、宮古、國頭の宜名具湾でありまが宮屋武嶋及び久米、慶國、渡名喜、伊平屋の諸島も追々好觀場となるに違ない扨て本年に於ける鰹業者の配當と産額の概算を言は尖閣列島に三艘で壹万八千圓内外八重山に四艘（糸瀬、翅花、他縣人）で壹万六千圓宮古貳艘（鮫島平平）で五千六百圓慶良間島拾五艘で二万二千五百圓本部方面（本部船十三隻、及び大嶺、翅花北谷各一隻大宣味船三隻名護二隻及讀田の船一隻）總計二十二隻で三万六千五百圓宜名具方面二隻で二千七百圓其他宮屋貳等の船を入るれば全縣下の産額如何しても拾万圓以上に上ているのである之を三四年前に比すれば五六倍も増し其の進歩實に大なると云ふべしである此之れ主として本部間切に於ける發展の然らしむる所である依て今左に同地に於ける發展の原因及び現況を少しく記して見る言う同地は一昨年一隻の鰹船を購入し斯業に從事せしことあるが當時未だ經驗なかりし爲め失敗に歸し船も他に賣却するに至りしも同地金城雲吉、伊村渠平二郎の兩氏何觀る所ありて一は百二十圓一は百八十圓にて小なる船を求め書籍之に着手せしかは收獲頗る夥しく上り今日迄の收得額は二千四百圓後者は二千二百圓もありし故之を觀る者誰か空しく手を納めて傍觀すべげんやの勢にて七月頃に至りては此處にも一隻彼處にも一隻と日々鰹船を購入する者湧出するに至り八月頃に至りては既に拾隻の漁船を渡久地港に飼るの盛況を呈し彼も大漁是も大漁の聲陸に充ち海に溢れ長業者にして製造又は漁具に轉業する者其の數を知らず其の入船の頃に至りてや海岸人山を爲し裏造家は夜を徹して之に從事する等其の壮況實に筆紙に尽し難き程なり曉翁の收獲に心して尚は此の如し若し夫れ此等の漁船をして初期より從事せしなら尚ほ數倍の産額ありしならん此に面白き一話あり序に言はんとするがこれは解である曾て伊江島に七百五拾圓にて購入せし一隻の船があつたろうだが不勢練の結果收獲少く遂に之を賣却せざるを得ざる事と成たそうだ所が本部邊にては此船はイヤ速力が遅だのイヤ魚の釣れぬ船だのと云ふて大違見下ていたそうだが前記仲村渠某は本船を釣るものか魚は人が釣るものさと云つて直に其船を四百圓にて買取りし所果して大收獲あつたと云ふことである

偖て右樣の如く本部間切に斯業の發展するに至りし主なる原因は蓋し前縣郡役所々員の勧誘最も有力である特に喜入郡長に於ては曾て同地に到り劇へ漁船に乘込み親く其の實況をも觀察して大に漁民を勧誘奬勵せしことあり現に今度予算が同地に到りし時漁業者は言ふていた先に郡長並に貴殿等の勧誘に從てれけは最早吾等は大に金持になりしならんと同地漁民は皆な喜入郡長の勧誘に對し滿腔の感謝を以て其の効を大に感していた遠洋漁業は誰も知る如く遠洋漁船とては目下第一糸瀧丸の一隻あるのみにて收獲高は大したるものとは云へないが將來は有望のようである本年同船の收獲高は凡そ壹万五千圓位であると云ふ

以上は先つ縣下本年に於ける主なる漁業の狀況なるが之より本論に入らんとするに當るに本縣の漁業は年々發展しつゝあるには相違なきも特に昨今に於ては大に觀るへき事ありて今や將に發展の初期にあるかようである故に此時に當り尊敬の基礎を堅ひるの必要を感するとと同時に博く當業者否を全縣の人に此等改良發達の趨勢を紹介するの必要を感しているが品評會（名稱は如何でもよし）を開設するに如くものないのである

1907. 12-16
(2) R

12/16 (2)

1907年12月16日